

JFF チタンフレーム

OnebyESU のフレームシリーズ「JFF」は 2010 年から開発を、2014 年に発売をスタートし、今年で発売 9 年目。そして 9 作目として今月発表するのが、2020 年発売「JFF Ti」のバージョン 2 となる「JFF TiV2」です。

これまでも本ページで JFF フレームについて幾度となく書いてきましたが、2020 年 3 月の Vol.21 ではファーストモデル「JFF Ti」の開発ストーリーをお伝えしました。その中で JFF チタンについて「素直な始動、伸びやかな巡行、直進の安定性、コーナーでの優れた操舵性、ダウンヒルやグラベルでもバランスを崩すことなく次の道に誘ってくれる・・・」と書きました。それに「身体と自転車の弾力が合致するような（感触）・・・」とも。まさにこれらをさらに追求したのが「JFF TiV2」です。

多くの特徴がある中で、ここではポイントとなる 2 点について説明します。

▶スルーアクスルとフラットマウントによるディスク仕様のフレーム制作で、JFF フレームのポリシー「心地よい＝快適な感触」を達成しようとする時、特に金属系フレームでは後ろ側の過剰な剛性を如何にいなすか、という課題が待ち構えています。そのためには付属パーツの設計工夫だけではなく、フレーム自体をどう加工するかが重要なポイントとなります。ファーストモデルで既にチタン素材特有の振動減衰能力により過剰剛性がもたらす不快感を和らげ優しく補うことを実現していましたが、クロモリモデルの「JFF 701D」で実現させた、複雑な当社オリジナル設計のチェーンステー加工（型）による快適性（Vol.27 参照）をチタンにも応用することが、JFF らしさのさらなる探求につながると考えました。チタンを得意とする制作工場はクロモリでのチェーンステー加工を実現してくれたわけですが、流石にこの複雑な設計型を加工が難しいとされるチタンに応用するのは無理と言われました。制作工場の社長は頑固な技術者。プライドも高く、これまでもサジを投げられる寸前の場面まで行ったことが何度となくありました。そんな社長がかなり時が経ってから、「トライしてみる、ダメもとで、とのこと。少し怯えながら結果を待つこと数ヶ月。「できました」と。強度安全性をクリアし同じ型を使いながらもクロモリよりも攻め込んだ潰し扁平を実現していました。加工工程はクロモリの数倍とのこと。この段階で V2 は素晴らしいものになると確信したのです。



▲V2 最初のテストフレームは 1 年前の 2022 年 6 月に出来上がりました



◀これがチタンなの？と見紛う複雑な加工を施されたチェーンステー



▶3A 2.5V チタン シームレスチューブを見事な溶接で継いでいます



▲ファーストモデルとの違いも明瞭、表面仕上げも輝くブライトチタンに



▲最初のテストフレームが国内の組み立て専門工場ですぐに組み立てられます

次ページへ続く ➡